

漢字チェックシート

漢字チェックシートは、帰国時にどの程度漢字力が身についているかを判断する目安にします。帰国時にどの程度の漢字力を持っているのかを大まかに把握することにより、帰国してから日本の学校に編入する時に担任の先生に伝えることも可能であり、家庭や学校で漢字学習の指針になると思われます。

チェックシート作成にあたっては、平成17年度版「光村図書教科書上の漢字の広場①～③」を参考に、できるだけつながりのある文の中で漢字の力を測定するように留意し、1年生から5年生までの漢字の「読み」「書き」のチェックシートを作成しました。但し、海外で学ぶ子どもたちへの配慮は特にしていません。

「読み」については、50問から70問程度、「書き」は50問あります。

学年によって読みの数が多くなっているのは、下の学年の漢字がどの程度分かっているかを把握するためです。

学習指導要領では、例えば、4年生の子どもがいたとすると、4年生終了時には、4年生での「読み」ができていること、書きについては、3年生の段階の漢字が書けることが要求されています。

しかし、神戸大学発達科学部附属住吉小学校の帰国児童学級で学んでいる子どもたちも含め、帰国児童の漢字力については、大きな個人差があります。当然のことながら、補習授業校で学ぶ子どもたちもかなりの個人差が予想されます。帰国時の学齢より1学年又は2学年の幅を持って、診断した方がよいでしょう。

例 4年生で帰国する児童の場合

三年生の漢字(書き1)
としのビルからしまがみ
えます。
みなとからうみを見ると、
なみがたかいです。
つきようをわたると、も
うすぐえきです。

3年生の漢字の「書き」が、どの程度できるかを診断してください。
50問のうち、7割以上できていれば、帰国しても、それほど大きな問題はないと判断できます。(努力は必要です)
5割以下なら、2年生の漢字も調べる必要があります。

三年生の漢字(読み1)
都市のビルから島が見え
ます。
港から海を見ると、波が
高いです。
鉄橋をわたると、もうすぐ
駅です。

3年生の漢字の「読み」が、どの程度できるかを診断してください。帰国する時期にもよりますが、場合によっては4年生の「読み」をやるのもよいでしょう。
「読み」の場合は8割以上ができていることが必要です。